

岐阜社会保険病院の存続、充実を求める意見書

岐阜社会保険病院は250床を有する2次救急医療対応病院であり、長年にわたり可児・加茂地域における地域医療の一翼を担ってきた。同病院は健康管理センターおよび介護老人保健施設「サンビュー可児」を併設し、疾病の予防、早期発見から治療、家庭復帰までの自立支援のための医療・保健・介護を一貫して行える機能を有し、地域住民の健康福祉の向上に貢献している。

そのような中で、医療保険制度の運営効率化にむけ平成14年12月に厚生労働省が方針としてとりまとめた「社会保険病院の在り方の見直しについて」に基づき、整理合理化計画の策定が検討されているが、社会保険庁の解体と関連して4月の与党合意では、全国52か所の社会保険病院を独立行政法人「年金・健康保険福祉施設整理機構（RF0）」に移すとともに、今後の受け皿をどうするかなどの検討を行うとされている。今後岐阜社会保険病院が廃止や民営化された場合には、可児・加茂周辺における地域医療への影響は極めて大きい。

同病院は地域に欠かすことができない身近な総合病院であるとともに、高度医療を安心して受けることができる公的病院として、地域になくってはならない存在である。

よって国におかれては、地域住民の健康福祉の保持増進に大きな役割を担う同病院を公的病院として存続させるとともに、より一層地域医療の充実を図るために特段の措置を講ぜられるよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成20年6月27日

岐阜県可児市議会

衆議院議長	河野	洋平	様
参議院議長	江田	五月	様
内閣総理大臣	福田	康夫	様
総務大臣	増田	寛也	様
厚生労働大臣	舛添	要一	様
社会保険庁長官	坂野	泰治	様